

経済指標ウォッチャー

3月米国CPI 約40年ぶりに前年同月比8%を超える上昇

市場では2022年末に政策金利が2.5%になるとの見方が優勢

消費者物価指数 (CPI) とは？

CPIとは消費者が実際に購入する段階の、輸送・食品・医療などの消費財やサービスの価格（物価）の変動を表す指数。CPIの項目、構成比、算出方法には国ごとに違いがある。米国では労働省が毎月中旬ごろに公表する。物価変動の基調をみるために価格変動の大きい項目を除いたコアCPIが重視されることが多い。米国ではCPIからエネルギーと食品を除いて、コアCPIが算出される。

(参考：日本ではCPIから食品を除いてコアCPIが算出される)

CPIは前年同月比8.5%上昇

12日に米労働省が発表した3月のCPIは前年同月比+8.5%と市場予想の同+8.4%をも上回り、1982年1月以来約40年ぶりに同8%を超える高い伸びとなりました。変動の大きいエネルギーと食品を除いたコアCPIは同+6.5%と市場予想の同+6.6%を下回ったものの、前月の同+6.4%から伸びが加速しています（図表1）。

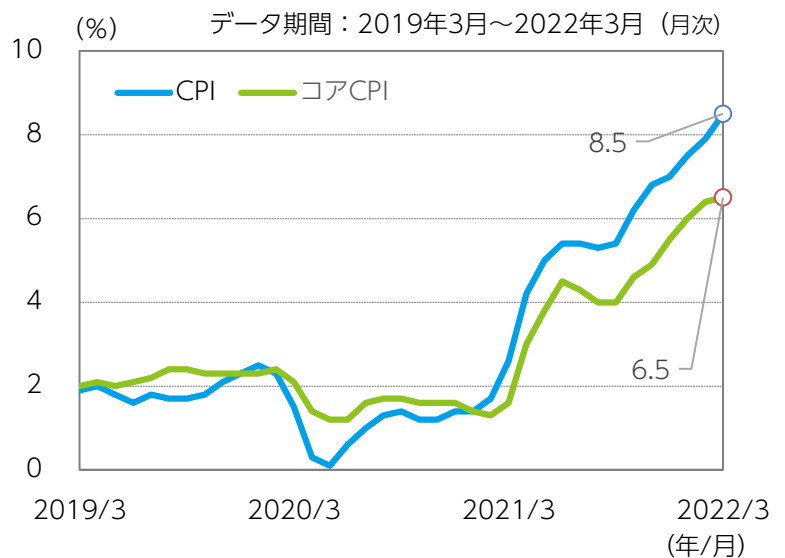
ロシアによるウクライナ侵攻を受けた原油価格高騰によるエネルギー価格高騰やそれに伴う航空運賃の上昇が要因とみられます。一方、中古車などモノの価格が落ち着きつつあることから、市場ではCPIはピークをうったとの声もあります。

政策金利は年末に2.5%との見方を後押し

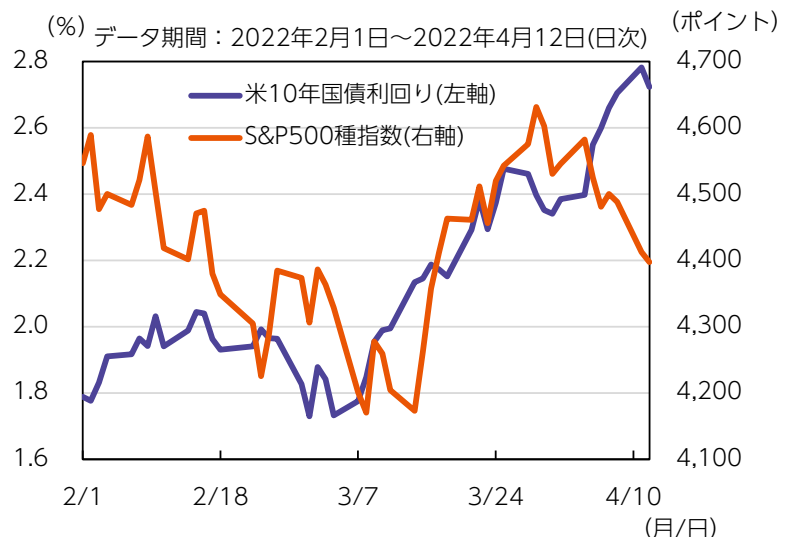
3月CPIはほぼ市場予想通りではあったものの、12日のウォールストリート紙のインタビューでブレイナードFRB(米連邦準備制度理事会)理事が、早ければ6月にも保有資産の圧縮に着手する可能性を示唆したことから、株価は下落しました。一方、米10年国債利回りは上昇ペースが早かったこともあり、買い戻しが優勢となり低下(価格は上昇)しました（図表2）。

インフレ率(CPI)はFRBが目標としている前年同月比+2.0%の水準を13カ月連続で上回っており、2021年12月以降4カ月連続で同7%を超える高い水準となっています。6日に公開されたFOMC(米連邦公開市場委員会)議事録で、利上げと保有資産の圧縮に積極的に取り組む意向が示されたこともあり、市場では次回5月FOMCで0.5%の利上げと保有資産の圧縮開始が決定されるとの見方が優勢になっています。インフレ率はピークをうった可能性も考えられるものの高水準で推移していることから、今回の結果は2022年末までにFRBが2.5%まで政策金利を引き上げるとの市場の見方を後押しするものと思われる。

図表1：米国のCPIとコアCPIの推移



図表2：米国の株価と長期金利の推移



出所) 図表1、2はブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>